



光線過敏症について

紫外線の増える
夏季に注意！！

<光線過敏症とは> 日光などの照射によって日照射部に丘疹、紅斑、水疱、膨疹などの皮膚症状を呈したり、光線が関節炎、気管支炎等の原因となったりする疾患

<原因>

外因性…薬剤による

光毒性反応：原因物質が皮膚に存在し光照射を受けた場合に 1 回目の光暴露によって発症
一定の薬剤と日光により、誰にでも起こり得ます。

光アレルギー反応：薬剤使用後、日光照射によりⅣ型アレルギー反応で起こります。
一定の期間を経て発症。

内因性…遺伝、体質、膠原病によるもの

<治療>

原因薬剤の中止あるいは変更、外用ステロイドによる対症療法、遮光が治療の原則です！

発現してしまった場合は、原因と思われる薬剤を中止し日光を遮断すること！

<予防> **発現頻度は少ないですが予防が必要です！**

原因となり得る薬剤を投薬する際には日光の暴露を極力避けることが第一です。

外出する際は長袖の衣類、帽子、手袋等を着用しサンスクリーンを塗布するなどを心がけましょう。

湿布薬の場合は貼付部位を日光に当てないようにしましょう。

<光線過敏症に特に注意が必要な当院採用薬剤一覧>

薬効分類	一般名	商品名
鎮痛消炎剤	ケトプロフェン	ケトプロフェンテープ 20mg 「テイコク」
		モーラステープ L40mg
		モーラスパップ XR120mg
抗線維化剤	ピルフェニドン	ピレスパ錠 200mg
抗ウイルス剤	シメプレビル	ソブリアードカプセル 100mg
抗がん剤	ベムラフェニブ	ゼルボラフ錠 240mg
光線力学的療法用剤	タラポルフィン	注射用レザフィリン 100mg

(添付文書「重要な基本的注意」の項に光線過敏症についての記載があるものを抜粋)

※ 上記薬剤以外にも副作用として光線過敏症の報告がある薬剤は多数ありますので、注意してください。